

ホストタウン交流事業 ニュージーランドホッケーアスリート交流 令和6年（2024年）3月4日～3月10日実施



スポーツ振興くじ助成事業



企業版ふるさと納税制度により、企業からの寄附を運営の一部に活用しています。

Kia Ora! ニュージーランド&日本のコーチたち!

今回は「次世代を育てること」に情熱を注ぎ、「自分たちがもつ知識は喜んで共有する」という、素晴らしいコーチたち7人が赤磐市に来てくれました。NZから現役ジュニア&ユースコーチ、高校教員、小学校校長、元ニュージーランド代表選手の肩書をもつ6人。また男子インドアホッケー日本代表ヘッドコーチも加わり、ホッケーの楽しさ、スポーツを通じた交流の素晴らしさを市民のみなさんと共有しました。

オリンピックレガシーとして、赤磐市が東京オリンピック後も続けているホストタウン交流。2021年以降、ニュージーランド&カナダ合わせて4回目となる今回の交流は、週末の交流で過去最多の参加者数を記録しました。親子で体を動かすことを楽しみたい家族、子どもたちが園や学校で先に交流をして「またコーチたちに会いたい」と子どもに誘われて参加した家族、ホッケーをやってみたい、NZの人と触れ合いたいと思って参加くれた人。NZ&日本のコーチたちと体を動かしながら「笑顔」と「いいね!」があふれる時間となりました。

教育関係者としての目線で、日本の教育現場にふれ「驚きと学びの多い1週間だった」と言うNZのコーチたち。「日本は素晴らしい国だと知っていたが、今回その理由がわかった」と伝えてくれました。その理由とは。。

園、学校での交流（全4校園）

3月5日～8日実施

3/5
とよた
保育園

サプライズの歓迎太鼓とダンスで大盛り上がり。子どもたちが「うらじゃ」の踊りと、太鼓を披露してくれたあと、NZのコーチたちも太鼓にチャレンジ。子どもたちが上手に教えてくれました。また「みんなで一緒に踊りたい」とのリクエストにコーチたちも立ち上がり、音楽に合わせて全身で楽しみました。その後、ホッケー体験。「もう少しやりたかった!」と思うくらい、あっという間に1時間が過ぎました。



子どもたちが折り紙で作ったチューリップとメダルをプレゼントしてくれました。NZコーチたちは「本当に子どもたちが作ったの?先生じゃなくて?」と驚いていました。日本人の器用さはこの年頃から生まれているんだね、と感心するコーチたちでした。

磐梨小学校での交流1日目は外国語授業、給食から昼休みを一緒に過ごし、5時間目は体育の時間にホッケー教室を実施しました。1日目はあいにくの雨。昼休みは教室で昔あそび（けん玉、こま、竹とんぼなど）をしたり、体育館で一緒に体を動かしたりして交流しました。外国語の授業では色や形のカルタで盛り上がりました。体育では、ホッケーを一緒にして、こどもたちの上達の速さにNZのコーチたちは感心していました。北京オリンピックに出場したスプリンターのジェームスと競争した児童たち。6年生は卒業前の思い出として、オリンピックとの競争を楽しんでくれたでしょうか。

3/5,3/7
磐梨小



2日目、書道の時間では児童が先生となり筆遣いや書き順を教わりました。この日は晴れ！業間休みは学校に隣接する多目的広場（ホッケー場）でボールを蹴ったり、鬼ごっこをしたり、「また会えてうれしいよ」とコーチたちも児童たちもリラックスした雰囲気。体育の時間には、広い人工芝の上でホッケー教室をしました。



ニュージーランド国歌で歓迎してくれた子どもたち。NZでは英語と先住民マオリの言葉「マオリ語」も公用語のひとつ。マオリ語と日本語は音が似ていることから、こどもたちはとても自然な発音で上手にマオリ語NZ国歌を歌いました。

鬼につかまるとタコになる「タコ鬼ごっこ」やボールを使った追いかっこなどで準備運動をした後は、ホッケー体験。「ホッケーをまたやりたいと思ってくれたらうれしい」と言うミッシェルさん。NZ国旗を振るこどもたちのアーチを笑顔で進み、ハイタッチでお別れしました。

3/6
あすなる
こども園



3/7
城南小

2021年東京オリンピック前にコロナ禍で直接交流ができない中「NZ応援ソング」を歌ってNZチームを応援をした城南小4、5年生の児童たち。コーチたちはその時の映像を見て「まだ覚えているなら一緒に歌いたい!」と話していました。授業の始まりに子どもたちと輪になり肩を組み、スピーカーから音楽を流すと大合唱が始まりました。Tutira Mai Nga Iwiでみんなが笑顔になり、心ひとつになりました。この日からインドアホッケー日本代表ヘッドコーチの中條さんも加わり、さらに充実した交流となりました。



トップアスリートと遊ぼう！

3月9日実施

東京オリンピック後、ホストタウン交流過去最多の参加者と、参加バラエティー。赤磐市消防本部や熊山剣道スポーツ少年団も交流に加わり、たくさんの市民がホッケーだけでなく、放水&心肺蘇生体験、剣道体験、ニュースポーツ体験をしました。地域のみなさんとNZ&ジャパンのコーチが体を動かしながら広場で交わる様子は「言葉を越えた交流」でした。



「人の頭をたたくなんて、できないよ」と尻込みをするNZコーチたちに、「思いっきりどうぞ!」という剣士。



元教師でオークランドホッケー連盟代表として、長年教育と運営に関わってきたマノジさん。「岡山県、赤磐市にはアスリートの原石がたくさんいる」「スポーツをするときに一番大切なのは笑顔でいること」「失敗はたくさんすること」「チャレンジすることは楽しいことだし、良いことだということを忘れないでほしい」「コーチや大人たちもそれを覚えていてほしい。そして子どもたちを励まして」と。



大きくうなずいたり、「オッケー！」と反応したり、NZコーチたちとしっかりコミュニケーションをとろうとする小中学生。「一番大切なことは楽しむこと。笑顔を忘れてはいけないよ。」とコーチからのアドバイス。



地域ホッケークラブや部活動指導者からの質問に丁寧に答えてくれるコーチたち。



最後に...

NZコーチたちが、赤磐市で過ごした一週間で感じたこと、気づいたことを教えてくださいました。「日本が素晴らしい国なのは教育の賜物」。小さなころから、「助け合うこと」「人の話をきくこと」「相手を敬うこと」「丁寧にものを扱うこと」を学んでいる。どの国も大人や教師たちはそれを目標にしているが、これほど成功している国はないのではないかと思います。

使ったものを片づけるとき、きれいにたたむ&整えるが体に染みついているなんて、信じられない。「片づける」とは物を箱に入れたり、あった場所に戻すだけじゃないんだ。(休み時間、授業後の片づけの様子を見ての言葉)

この真面目さと、謙虚さと我慢強さがあればアスリートとしてもトップクラスになる素質はみんな持っている。ただひとつ、必要なのはこれじゃないかな。というマノジさん。それは「自信」。「自分を信じること」「やればできる」と思うこと。アジア人に共通しているかもしれないけれど、きっともう少し必要なのはそこだけ。それは大人が励ませばいい。成功している人ほど失敗をたくさんしているし、チャレンジし続けている。赤磐市で出会ったこどもたちは、すでに継続する力や、アドバイスを聞く柔軟な心を持っている。あとは自信をもつことだけ。それだけで、こどもたちはどんどん前向きに成長する。また、ホストタウン交流についても、「体験」したことは子どもたちの記憶に大きく残る。それが郷土愛につながる。そのお手伝いができるのであれば、これからも喜んでお手伝いしたい。と言われました。



ジェームスさん
Mr. James Dolphin

中條さん
Mr. Tomohiro Chujo

ラーಜさん
Mr. Rajesh Pancha

ミッシェルさん
Ms. Michelle Walker

ウメさん
Mr. Umesh Hari

マノジさん
Mr. Manoj Daji

サンジェイさん
Mr. Sanjay Rama

Thank you, coaches!